

『ひろしま未来の育 MEN』プロジェクト

提案団体：ひろしま未来の育 MEN プロジェクト

代 表 者：看護学科 3年 井手上 千春

顧 問：看護学科 講師 梅田 弘子

実 施 計 画

実施期間 2014年6月11日（水）～2015年3月31日（火）

奨励金額 299,717円

活動目的 本プロジェクトは、男女共同参画の視点から、子育てについて学生らしい意見を交換し合い、学生自身が未来の育MEN(育児を率先して行う父親・母親)を目指すために2012年に立ち上げられた。今年度の目的として、本プロジェクトメンバーが自ら育児・パートナーシップに関する学びを深め、さらに今までの学びを発信していく集大成の場を設けることを目的とする。

達成目標 (1) 大学生が、将来の家事・育児に興味を持つ
(2) プロジェクトメンバー自身が、育児・家事に関する知識を習得する
(3) 育MENの周知

計画概要 1. 大学生が、将来の家事・育児に興味を持てるようになることを目的とした講座・イベントを実施
□7月5日（土）未来のパパママ講座～ワーク・ライフバランスの実現のために～
（以下：未来のパパママ講座）
2. 育MENを他の地域に広めていくために、各地域で行った育MENを紹介するパネル展示
□10月25日（土）・26日（日）「大学祭」

パートナー ①呉市すこやか子育て支援センター「ひろひろ・ば」
②特定非営利活動法人日本結婚教育カウンセラー協会

活動・成果報告

今年度の最も大きな活動として、7月5日に呉市すこやか子育て支援センター「ひろひろ・ば」にて、大学生対象に未来のパパママ講座を実施した。参加人数は25名で、講座は第一講座から第四講座にわたる。講座の内容を以下に示す。

第一講座：未来のパパママになるために今からできること～『婚育』を学ぼう！～

棚橋美枝子氏（NPO法人日本結婚教育カウンセラー協会代表理事）に結婚にまつわる社会の現状、結婚の目的・意義、結婚と育児の実現、夫婦関係、幸せな結婚生活を送るために必要な準備、「愛する」とは、自己理解・自己受容と他者理解についての講演をいただいた。



第二講座：未来のパパママに期待すること～夫、そして父親の立場から～

佐田俊弘氏（NPO法人日本結婚教育カウンセラー協会理事）に父親の育児の実際、夫・父親としての覚悟、夫婦のパートナーシップについての講演をいただいた。

第三講座：子育て親子とのふれあい体験～実際の子育てに触れて取材をしてみよう！～

「ひろひろ・ば」に遊びに来られている親子と実際にふれあいながら、結婚に至った経緯、家事分担、子どもが生まれてからの生活の変化などテーマごとにインタビューを行った。

第四講座：未来の結婚・子育てについて仲間と語り合おう～将来、ワーク・ライフバランスを実現しながらパパママになるために、大切だと思うこと～

参加者を5つのグループに分け、講義や親子とのふれあい体験、自分の生育環境を振り返りながらグループメンバーとディスカッションを行った。

講座終了後に、参加学生に対してアンケートを行った。講座全体を通しての感想として、「自分を大切にし、自分が幸せになるための努力をしていかなければいけないと思いました。」「自分の考えを深めることができたし、考えなおすことがたくさんありました。」という感想や「普段、結婚や出産、子育てについて考えることがなかったが考えを深めることができました。」「これからの未来について少しだけイメージがわいてきた。」という感想が寄せられた。

成 長 度

1. どのような課題に直面し、（それを乗り越えるために）どんな苦労がありましたか。

男性の育児休暇取得が難しい状況を打開するための一助となるよう、地域社会に対して男性の育児参画の推進啓蒙活動を行っていくことが課題であった。それに対して、地域子育て支援センターと協力して、未来のパパママ講座を開講し、地域にプロジェクトの発信をすることができたが、社会に対してのさらなる発信を行っていかなければならないという課題に直面した。

2. その課題をどのような努力や工夫で乗り越えましたか。

この課題は乗り越えることができなかった。今後必要な工夫として、定期的にFacebook更新を行っていくことが必要である。Facebook更新に関しては、メンバー全員がプロジェクト発信の意味を理解し積極的な更新を目指せるような意識づけを行ってきたい。

未来のパパママ講座では、将来を意識している同年代から刺激を受け、親準備性を高めていくことができるように、講師や教員だけでなく、同世代であるプロジェクトメンバーも地域の学生に働きかけることができた。しかし、働きかけの機会が講座のみとなった。今後、リーフレットを他大学や行政団体に送付し本プロジェクトの認識をしていただいたうえで、活動を得られる機会を作る努力が必要である。そのため、プロジェクトの持続性を見据えた話し合いを設けていきたいと考えている。



3. 自分たち（チーム）が一番成長したところはどこですか？理由もお願いします。

7月5日に企画した、未来のパパママ講座に参加した学生から講座を振り返ってのコメントをいただくことができた。コメントは以下のとおりである。「現在大学生の私は、毎日勉強に追われ、自分の時間を失っていた。いつも今の自分がどう毎日をごんしていか考えるくらいで、未来のことは漠然としか思い浮かべていなかった。そんな時、この講座を受けて、いままで考えたこともなかった結婚や、子育てについて

具体的に考えることができた。この一日の間で精一杯考えたことは、自分の成長に繋がると思う。今ではちょっと空いた時間に自分の将来のことを考えるようになったし、同時にこういう自分の人生・未来について考える機会がもっと欲しいと感じた。」

学生の子育てに対する意識改革という目標が、このコメントをもらって少しは達成できたのではないかと考える。このことから、若いうちに、自分の未来について考える時間を持つことは、今の自分の生き方を見直すことに繋がると考える。私たちは、自分の力で考える時間を求め、そしてプロジェクトメンバーだけでなく、今を生きる一般の大学生に対してのアプローチを止めてはいけないのだと強く感じた。これらの考えを次に生かし、プロジェクトのさらなる発展を目指したいと考えている。

4. 企画に参加したパートナーからの感想や気づき

「ひろしま未来の育MENプロジェクト」の皆さんへ
一次世代育成の視点からー

呉市すこやか子育て協会では、子育て支援の環境づくりを進めるうえで、「ひとりの子育てからみんなの子育てへ」を目指してひろば事業を中心に、さまざまな事業を展開しているところです。その取り組みの柱の一つに、次世代育成があります。

近年、乳幼児期の子どもをもつ世代は、今どき、少子化・核家族化・地域の絆の希薄化などの背景から、親としての育ちの経験が少ない現状があり、子どもたちの社会性の営みなどへの影響が心配されています。とりわけ、未来のパパママ育成支援として、近い未来、親になる可能性の高い大学生などの若い時から、結婚や子育てについて考える機会を持つことの大切さを感じています。まだまだ子育ての負担が女性だけにかかっている現状ですが、男性の育児のかかわり方の理解が進んでいない社会の中で、イクメンの在り方の研究を継続されている先生や学生さんたちには感心しています。

今回、前向きで熱心な「ひろしま未来の育MENプロジェクト」の皆さんと講座という形で、学ぶことができて大変嬉しく思っています。これからの社会を担う若者と、子どもたちの最善の利益につながる親の在り方をともに学ぶ機会が持てたことは、大変有意義でした。

今後地元の大学である広島国際大学と連携しながら、この取組がさらに進展していくことを願っております。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

呉市すこやか子育て協会 中岡博美



構成メンバー（学部・学科・年次・氏名）

看護学科	3年	井手上千春、宮城みさき、清水ひかり、松尾佳奈、安住優花、樋口愛美、田丸良健、菅聖歌、風呂本知佳、吉川美由、藤井麻衣、寺川昌孝
	2年	車先雄、影山千恭
医療栄養学科	1年	南雲愛衣奈、足立佳代